

会議報告

平成 23 年度動物衛生試験研究推進会議の概要

YOSHIOKA Miyako

企画管理部業務推進室 企画チーム チーム長 吉岡 都

平成 23 年度動物衛生試験研究推進会議が平成 24 年 2 月 14 日（火）に動物衛生研究所本所講堂において開催されました。参集者所属（人数）は以下の通りです。

外部委員（元共立製薬；1、明治飼糧；1）、農林水産省農林水産技術会議事務局（2）、農林水産省消費・安全局（2）、農林水産省動物検疫所（1）、農林水産省動物医薬品検査所（1）、農業・食品産業技術総合研究機構本部（2）、中央農業総合研究センター（1）、畜産草地研究所（4）、食品総合研究所（2）、北海道農業研究センター（1）、東北農業研究センター（1）、近畿中国四国農業研究センター（1）、九州沖縄農業研究センター（1）、農業生物資源研究所（2）、国際農林水産業研究センター（1）、家畜改良センター（1）、北海道立総合研究機構（畜産試験場；2、根釧農業試験場；1）、栃木県県央家畜保健衛生所（1）、群馬県家畜衛生研究所（1）、岡山県岡山家畜保健衛生所（1）、島根県家畜病性鑑定室（1）、沖縄県家畜衛生試験場（1）、動物衛生研究所（37）、以上 70 名。

検討議題は以下の通りです。1. 動物衛生研究を巡る情勢、2. 今年度の研究成果、3. 重点研究推進方向、4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）。

1. 動物衛生研究を巡る情勢

動物衛生研究所企画管理部長から、最近の動物衛生問題と動物衛生研究の取り組みについて説明しました。国内の課題として、平成 22 年に発生した口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザを受けて、より実践的な防疫手法および高感度検査法の開発と流行ウ

イルスの解析システムの構築が望まれること、BSE 等プリオン病研究では異常プリオン蛋白質の超高感度検出とリスク管理、ヨーネ病早期診断法の開発、地方病性牛白血病の伝播防止と感染源対策、牛アルボウイルス病や牛乳房炎の予防法開発、飼料の安全性確保などが挙げられました。また、レギュラトリーサイエンス等行政との連携やアジア近隣国における家畜伝染病の発生に対しての危機管理体制を整えるため、海外研究機関や OIE との国際協力の必要性が提起されました。

2. 今年度の研究成果

動物衛生研究所所長から、大課題を代表する成果 5 題と主要普及成果 4 題の説明があり、討論が行われました。また、北海道立総合研究機構畜産試験場および同根釧農業試験場、栃木県県央家畜保健衛生所、群馬県家畜衛生研究所、岡山県岡山家畜保健衛生所、島根県家畜病性鑑定室、沖縄県家畜衛生試験場の家畜衛生担当者が各々の平成 23 年度計画、成果、今後の問題点と次年度以降の計画について説明し、動物衛生試験研究における推進方向が討議されました。

3. 動物衛生研究の重点推進方向

次年度以降の動物衛生研究推進方向として、「乳房炎等、畜産経営を脅かす難防除性家畜疾病の制圧に資する新規ワクチンの開発」について病態研究領域の國保上席研究員から、「牛海綿状脳症（BSE）等動物プリオン病の総合的制御技術の開発」についてプリオン病研究センターの横山研究領域長補佐から説明され、討論が行われました。

会議報告

4. 連携・協力に関する事項(他機関からの要望事項)

農水省消費・安全局動物衛生課から6件、同・畜水産安全管理課から4件、動物医薬品検査所、北海道立総合研究機構畜産試験場および栃木県県央家畜保健衛生所からそれぞれ1件の要望事項に対し、動物衛生研究所からの対応方針を示しました。

外部委員からの「動物衛生研究所としてワクチン

開発をどのように進めていくのか」との指摘に対しては、ワクチン開発にはナショナル・プログラムとの適合やステークホルダーのニーズが重要であるので、研究対象とするワクチン開発の選定には行政部局との連携を図りたい旨を、「若手研究者には基盤的研究を担当することも大切である」との指摘に対しては、今後も研究計画の策定にあたっては配慮することを回答しました。

平成 24 年度家畜衛生講習会等開催計画

講習会名		開催場所	定員	開催期間	講習内容	受講対象者
基本講習会		動物衛生研究所本所	50名	5月14日 ～ 6月1日	畜産の動向、家畜衛生事情、基礎学理	家畜衛生講習会を受講したことがなく、家畜衛生業務に1年以上従事した経験を有する者
総合講習会		動物衛生研究所本所	50名	10月10日 ～ 10月12日	畜産の動向、家畜衛生事情、最新学理	概ね2～3年以内に家畜保健衛生所長になる予定の者又は家畜保健衛生所長であること
特殊講習会	病性鑑定	動物衛生研究所 本所(つくば) 海外病研究施設(小平) 北海道支所(札幌) 東北支所(七戸) 九州支所(鹿児島)	35名	5月8日 ～ 12月7日	監視伝染病を含めた家畜疾病の診断技術等の学理及び技術実習	特殊講習会 基本講習会を修了した者又は都道府県等において伝達講習を受講した者であり、かつ家畜衛生業務に2年以上従事した経験を有する者
	牛疾病	動物衛生研究所本所	50名	6月4日 ～ 6月15日	監視伝染病を含めた牛の疾病に関する学理及び技術実習	病性鑑定 当該業務に長期にわたって専任させようとする者 繁殖障害 当該業務に長期にわたって専任させようとする者であり、かつ当該業務に従事している者又は概ね1～2年以内に従事する予定である者 獣疫学 家畜衛生業務に3年以上従事した経験を有する者であり、かつコンピューターソフトによる表計算が行える者
	豚疾病	動物衛生研究所本所	50名	6月18日 ～ 6月29日	監視伝染病を含めた豚の疾病に関する学理及び技術実習	
	鶏疾病	動物衛生研究所本所	40名	7月2日 ～ 7月13日	監視伝染病を含めた鶏の疾病に関する学理及び技術実習	
	繁殖障害	民間団体	15名	9月26日 ～ 10月26日	牛の繁殖障害等に関する学理及び技術実習	
	獣疫学	動物衛生研究所本所	30名	10月15日 ～ 10月26日	監視伝染病を含めた家畜疾病の防疫対策に必要な獣疫学の学理及び演習	

平成 24 年度家畜衛生研修会(病性鑑定)開催計画

区分	開催時期	定員
生化学 病理 細菌 ウイルス	平成24年10月30日～11月2日 4日間	50名
	平成24年11月6日～11月9日 4日間	50名
	平成24年11月13日～11月16日 4日間	50名
	平成24年11月19日～11月22日 4日間	60名